



11-2
2985
1-6



禁汽 濟人 電氣 傳信



那日氏放記

福澤諭吉纂輯

西洋事情

慶應二年
丙寅初冬

尚古堂發兌

九 2
2985
/

四海一家 又 旗 貝 第



西洋事情目錄

初編

卷之一

小引

備考

政治

收稅法

國債

紙幣

商人會社

白洋書局 卷之一 目錄

外國交際

兵制

文學技術

學校

新聞紙

文庫

病院

貧院

啞院

盲院

癲院

痴兒院

博物館

博覽會

蒸氣機關

蒸氣船

蒸氣車

傳信機

瓦斯燈

附錄

卷之二

合衆國

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

荷蘭

史記

政治

海陸軍

卷之三

錢貨出納

英國

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

附錄

二編

卷之四

魯西亞

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

卷之五

佛蘭西

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

卷之六

葡萄牙

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

日耳曼總論

普魯士

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

西洋事情卷之一

小引

一 洋籍ノ我邦ニ舶来スルヤ日既ニ久シ其翻譯ヲ
 經ルモノ亦尠カラス然シテ窮理地理兵法航海
 術等ノ諸學日ニ闡ケ月ニ明ニシテ我文明ノ治
 ヲ助ケ武備ノ闕ヲ補フモノ其益豈亦大ナラス
 ヤ然リト雖氏余竊ニ謂ラク獨リ洋外ノ文學技
 藝ヲ講窮スルノミニテ其各國ノ政治風俗如何
 ヲ詳ニセサレハ假令ヒ其學藝ヲ得タリ氏其經
 國ノ本ニ反ラサルヲ以テ啻ニ實用ニ益ナキノ



ミナラス却テ害ヲ招シモ亦計ルヘカラス抑各
國ノ政治風俗ヲ觀ルニハ其歴史ヲ讀ムニ若ク
モノナシ然レ氏世人夫ノ地理以下ノ諸學ニ於
テ其速成ヲ欲スルカ爲ニ成ハ之ヲ讀ムモノ甚
稀ナリ實ニ學者ノ大典ト云フヘシ余頃日英亞
開版ノ歴史地理誌數本ヲ閱シ中ニ就テ西洋列
國ノ条ヲ抄譯シ毎条必ス其要ヲ掲テ史記政治
海陸軍錢貨出納ノ四目ト爲シ即チ史記以テ時
勢ノ沿革ヲ顯ハシ政治以テ國體ノ得失ヲ明ニ
シ海陸軍以テ武備ノ強弱ヲ知リ錢貨出納以テ

政府ノ貧富ヲ示ス蓋シ此四者既ニ世人ノ眼目
ニ觸レハコレニ由テ略外國ノ形勢情實ヲ了解
シ果シテ彼ノ敵視ス可キモノカ其友視ス可キ
モノカラ辨別シ友ハ則チ之ニ交ハルニ文明ヲ
以テシ敵ハ則チ之ニ接スルニ武經ヲ以テシ文
武ノ兩用其所ヲ錯ルナキニ庶幾ラン乎此レ
余力是舉ノ目的トスル所ナリ徒ニ世間海防家
ノ口吻ニ云ヘルカ如キ彼ヲ知テ後ニ彼ヲ伐タ
ントスルノミノ趣旨ニハ非ラサルナリ
一書中本邦ト通信ノ國ヲ先ニスル所以ハ唯其近

キニ取ルノ趣意ノミ尚其他諸國ノ条モ次テ翻譯ニ及フヘシ

一本編ノ翻譯ハ今茲三月ヨリ公務ノ暇業ヲ起シ六月下旬ニ至リ初編初テ稿ヲ脱セリ之ヲ校正スルニ及テ或人余ニ謂ヘル者アリ此書可ハ則チ可ナリト雖氏文體或ハ正雅ナラサルニ似タリ願クハ之ヲ漢儒某先生ニ謀テ正刪ヲ加ヘハ更ニ一層ノ善美ヲ盡シテ永世ノ寶鑑トスルニ足ル可シト余笑テ云ク否ラス洋書ヲ譯スルニ唯華藻文雅ニ注意スルハ大ニ翻譯ノ趣意ニ戾

レリ乃チ此編文章ノ體裁ヲ飾ラス勉メテ俗語ヲ用ヒタルモ只達意ヲ以テ主トスルカ為ナリ然ルニ今之ヲ某先生ニ謀ルモ徒ニ難字ヲ用ヒテ讀者ヲシテ困却セシムルノ外決シテ他事ナカルヘシ加之漢儒者流力頑僻固陋ノ鄙見ヲ以テ原書ノ情實ヲ誤認ムルモ亦圖ル可ラス是余カ甚タ欲セサル所ナリ且方今文運隆盛世人洋籍ヲ學フモノ一日一日ヨリ多シ益シ數年ノ後ハ人皆原文ヲ解シ此編ノ如キモ亦庸下覆甕ノ故紙トナラン門必セリ又余力本志ト雖氏敢テ不

朽ヲ計ルニ非ラス畢竟唯一時新聞紙ノ代用ニ
供スルノミ故ニ淺日急成ニ疎漏杜撰ノ罪遁ル
、ニ所ナシト雖氏讀者莫クハ余力意ヲ體シ文
字ニ拘泥セスシテ主意ノ大槩ヲ失フヲナクハ
則チ幸甚シ

一書中各國ノ条ニ掲載セル四目ハ唯其一國ニ限
ル所ノ事件トス然レ氏亦其西洋一般普通ノ制
度風俗アリテ我國俗ト異ナルモノ多シ今其大
槩ヲ左ニ條舉件説シテ本編ノ備考ト為ス乃チ
此条ハ去ル文久辛酉ノ年余力歐羅巴ニ航シテ

現ニ聞見セシ所ノモノヲ手録シ旁ヲ經濟論等
ノ諸書ヲ引テ編輯スルモノナリ但シ吾歐羅巴
ノ旅行ト雖氏僅力期年ヲ踰ヘサレハ固ヨリ一
時ノ觀光ノミニシテ詳ニ彼國ノ事情ヲ探索ス
ルニ暇アラス故ニ又傳聞ノ誤謬事件ノ遺漏ナ
キヲ能ハス是ノ如キハ唯後來博雅ノ訂正ヲ待
ツノミ

慶應二年丙寅七月

福澤諭吉誌

[Faint, mostly illegible handwritten text in the right-hand column]

備考

政治

一 政治ニ三様アリ曰ク立君ルモナ禮樂征伐一君ヨ
 リ出ツ曰ク貴族合議カアリスト國內ノ貴族名家
 相集テ國政ヲ行フ曰ク共和政治レホ門地貴
 賤ヲ論セス人望ノ屬スル者ヲ立テ、主長トシ
 シ國民一般ト協議シテ政ヲ為ス。又立君ノ政治
 ニ二様ノ區別アリ唯國君一人ノ意ニ隨テ事ヲ
 行フモノヲ立君獨裁ボットト云フ魯西亞支那等
 ノ如キ政治是ナリ。國ニ二王ナシト雖亦一定ノ

國律アリテ君ノ權威ヲ抑制スル者ヲ立君定律
コンスチテト云フ現今歐羅巴ノ諸國此制
ナルモナルキト云フ現今歐羅巴ノ諸國此制
度ヲ用ユルモノ多シ○斯ノ如ク三様ノ政治各
其趣ヲ異ニスレトモ一國ノ政ニ之ヲ兼用スル
モノアリ即チ英國ノ如キ血統ノ君ヲ立テ王命ヲ
以テ國內ニ號令スルハ立君ノ体裁ナリ國內ノ
貴族上院ニ會シテ事ヲ議スルハ貴族會議ノ政
治ナリ門閥ヲ問ハス人望ノ屬スル者ヲ撰舉シ
テ下院ヲ建ツルハ共和政治ナリ故ニ英國ノ政
ハ三様ノ政治ヲ混同セル一種無類ノ制度ナリ

又立君獨裁ト稱スル政治ニテモ事實ニ於テ生
殺與奪ノ權ヲ一人ノ手ニ執ルモノナシ魯西亞
皇帝ノ如キ人民ノ之ヲ尊仰スルヲ神ノ如シト
雖モ尚一人ノ私意ヲ以テ國政ヲ專ラニスル
能ハス又共和政治ト雖モ或ハ有名無實ナルモ
ノアリ千八百四十八年佛蘭西ノ共和政治ハ其
法律ノ苛酷ナルヲ當時立君獨裁ト稱シタル壞
地利ヨリモ尚甚シ純粹ノ共和政治ニテ事實人
民ノ名代人ナル者相會シテ國政ヲ議シ毫モ私
ナキハ亞米利加合衆國ヲ以テ最トス亞米利加

ハ建國以來既ニ百年ニ近シト雖氏嘗テ國法ノ破レタルヲナシ

歐羅巴政學家ノ説ニ凡ソ文明ノ政治ト稱スルモノニハ六條ノ要訣アリト云ヘリ即左ノ如シ
第一条 自任意國法寬ニシテ人ヲ束縛セス人々自カラ其所好ヲ為シ士ヲ好ムモノハ士トナリ農ヲ好ムモノハ農トナリ士農工商ノ間ニ少シモ區別ヲ立テス固ヨリ門閥ヲ論スルヲナク朝廷ノ位ヲ以テ人ヲ輕蔑セス上下貴賤各其所ヲ得テ毫モ他人ノ自由ヲ妨グスシテ天稟ノ

才カラ伸ヘシムルヲ趣旨トス但シ貴賤ノ別ハ公務ニ當テ朝廷ノ位ヲ尊フノミ其他ハ四民ノ別ナク字ヲ知り理ヲ辨シ心ヲ勞スルモノヲ君子トシテ之ヲ重シシ文字ヲ知ラスシテ力役スルモノヲ小人トスルノミ本文自任意自由ノ字ハ我儘放蕩ニ居リ法ヲモ恐レストノ義ニ非ラズ總テ其國ニ居リ人ト交テ氣兼子速慮ナク自カケ存分ノヲナハスミシト趣意ナリ英語ニ之ヲアリト云ハリメルチト云フ未タ的當ノ譯字アラズ
第二條 信教人々ノ歸依スル宗旨ヲ奉シテ政府ヨリ其妨ヲナサ、ルヲ云フ古來宗旨ノ爭論ヨリシテ人心ヲ動搖シ國ヲ滅シ人命ヲ害スル

ノ例也カラス英國ニテモハノオール家ノ世
 ニ至ラヨリ以來ハ專ラプロテスタントノ宗旨
 ヲ奉シ一時ハ國內ニ令ヲ下シテ他宗ヲ禁シタ
 レル^{アイランド}阿爾蘭人ノ如キハ古來天主教ヲ信シテ政
 府ノ命ニ服セズ由テ又法ヲ改メ宗門ハ人々ノ
 意ニ任スベシト定メタリ然レハ政府ハ固ヨリ
 力ヲテスタントヲ奉セシメントスル意ナレカ
 故ニ或ハ大ニ其寺院ヲ建立シ或ハ他宗ノ教師
 ヲ擯斥シテプロテスタントノ教師ニ大祿ヲ與
 フル等ノヲアリテ動モスレハ人心ニ戾リ又近

來ハ一法ヲ立テ國政ニ關ル大臣ハプロテスタ
 ント宗ノ人ニ非サレハ才徳アル者ト雖ハ擢用
 スルコトナシ石等ノ故ヲ以テ天主教ニ歸依スル
 者ハ家ヲ擧テ他國へ移住スト云フ是即政府ニ
 テ信教ノ趣意ヲ失スル一例ナリ
 第三條 技術文學ヲ勵マシテ新發明ノ路ヲ開
 ク
 第四條 學校ヲ建テ人才ヲ教育スル
 第五條 保任安穩政治一定シテ變革セズ號令
 必ス信ニシテ欺偽ナク人々國法ヲ頼ミ安シテ

西洋事考 卷之二
産業ヲ營ムラ云フ譬ハ或ハ國債ヲ償ハス或
ハ通用金ノ位ヲ卑クシ或ハ商人會社ノ法ヲ破
リ或ハ為替問屋ノ分散スル等皆其政治ニ保任
ノ趣意ヲ失フモノナリ現今佛蘭西帝所有ノ金
ヲ英國ノ為替問屋ヘ預ケシト云フモ其制度ノ
固クシテ頼ムヘキ所アルノ一證ナリ
第六條 人民飢寒ノ患ヲカラシムルヲ即病院
貧院等ヲ設テ貧民ヲ救フヲ云フ

収税法

西洋各國ハ工作貿易ヲ以テ國ヲ立ルノ風ニテ

其収税ノ法日本支那等ノ制度ニ異ナリ今コ
ニ英國ノ税法ヲ舉テ一例ヲ示ス
港運上 歳入第一ノ高ナリ此内酒類烟草ノ運
上最モ重シ十八百五十二年港運上ノ高三千一
百十七万ポンド余ナルニ運上所役人ノ給料并
ニ不時ノ褒美等諸雜費ヲ合セテ六十五万ポ
ンドニ足ラス収税ノ法ノ簡便ナルヲ推テ知ルヘ
シ
國內產物並ニ官許ノ運上 國內ノ產物ヨリ盡
ク運上ヲ取ルニハ非ラス又物ニ由テ運上ノ輕

重アリ有税品ノ大略ハ酒類、糶、烟草、紙、石鹼、蠟燭、
 石炭、村木、硝子、等ナリ例ヘハ麥酒百樽九七斗入ヲ釀
 スモノハ一「ボン」ト十一「シル」リングノ運上ヲ納
 メ千樽以下ヲ釀スモノハ二「ボン」ト二「シル」リ
 グ四万樽以上ヲ釀スモノハ七十八「ボン」ト十五
 シル「リ」ングヲ納ム○官許ノ運上トハ商賣柄ニ
 ヨリ官府ノ免許ヲ受ケテ別段ノ運上ヲ出スモ
 ノヲ云フ即酒ヲ賣リ、糶ヲ賣リ、烟草ヲ製スルモ
 ノ、茶店、料理屋、馬車ヲ以テ家業ヲナス者江戸ノ
 シ如等是ナリ又冬ノ間、遊獵ノ免許ヲ受ルニモ

定リノ運上アリ

證印税 屋宅ノ貸借金銀ノ「ニ」就テノ約書、兩
 替屋ノ手形、為替手形、借財、質入、貨物讓渡シ、弟子
 入、職人等ノ年期ヲ定テ 婚姻、離縁、遺言、任官、火災
第子トナルヲ云フ 請員、海上請員、新聞紙出版、金錢請取等皆書
 面ヲ用ユルハ官府ノ印ヲ押シテ後日ノ證ト
 ナシ其證印ノ税トシテ定リノ高ヲ納ム例ヘハ
 金錢ノ「ニ」就テ約束スル片其金高二十「ボン」ト
 ニシテ約書ノ字數二千百六十字以下ナレハ證
 印税二「シル」レ「グ」半ヲ納メ借財質入ノ高二百

五十ポントヨリ三百ポントナレハ證印稅七シ
ルリシ半ヲ納メ三百ポントヨリ以上ハ百ポ
ント増ス毎ニ二シルリシ半ヲ納ムル等夫
々ノ定法アリ若シ官府ノ證印ヲ押サシテ私
ニ證書ヲ取替ス片ハ後日ニ至リ爭論ヲ生スル
トモ官ノ裁判ヲ願フ能ハス且斯ノ如キモノ
ハ政府ヲ欺クノ罪トシテ過料ヲ出サシムルヲ
法トス

地稅家稅等 地稅ハ都下ト田舎トノ區別ナク
唯土地ノ廣狹良否ニ準シテ之ヲ定ム其法大凡

歲入二十五分ノ一ヲ収ムルヲ基則トス例ハ
今都下或ハ田舎ニ一區ノ土地アリ之ヲ賣買ス
ルニ價千ポント之ヲ人ニ貸セハ其地代土地ノ
本價百分ノ三四即三四十ポントナルヲ通法ト
ス政府ヘ納ル二十五分ノ一トハ即此三四十ポ
ントノ二十五分一ナリ右ハ土地ヲ他人ヘ貸ス
片ノ法ナレモ若シ自分所持ノ土地ヘ家ヲ建テ
或ハ自カラ耕作スル者ハ政府ヨリ吏人ヲ遣シ
テ其地ヲ監定シ人ニ貸シテ一歲ニ収ムヘキ地
代ノ高ヲ設ケ其二十五分ノ一ヲ政府ヘ収ムル

税ト定ム家税ノ法モ全ク地稅ト異ナルナシ
 地稅家稅共ニ定法ニ十五分ノ一ナレバ貧院ノ
 入用等アリテ大抵二十分一ノ割合トナルト云
 ○地稅家稅ノ外ニ奴僕、犬、馬、車等ノ稅アリ十八
 歳以上ノ奴僕一人ヲ仕用スレハ其主人ヨリ一
 ポント一シルリングノ稅ヲ納ム十八歳以下ナ
 レハ十シルリング半ヲ納ム二馬ヲ駕スル四輪
 車一輛ヲ所持スレハ其稅三ポント十シルリン
 グ一馬ヲ駕スルモノハ十五シルリング馬一疋
 ノ稅ハ十シルリングニシテ犬一疋ノ稅ハ半ニ
 シルリングナリ

家産稅 商賣ヲ為シ或ハ學術ヲ教授スル等ニ
 由テ家産ヲ營ムモノハ一歳所得ノ利潤二十五
 分ノ一ヲ官ニ納ム之ヲ家産稅ト云フ又仕官ス
 ル者ハ其給料ヲ以テ家産ト為スカ故ニ稅ヲ納
 ムルト商人ト異ナルナシ
 飛脚印 西洋諸國ニテ飛脚ノ權ハ全ク政府ニ
 屬シ商人ニ飛脚屋ナルモノナシ故ニ外國へ文
 通スル者ハ勿論國內ニテモ私ニ書翰ヲ送ルヲ
 得ス必ス政府ノ飛脚印ヲ用ユ其法政府ニテ飛
 脚印ト名ル印紙ヲ作り定價ヲ以テ之ヲ賣ル諸

人之ヲ買ヒ書翰ヲ送ルトキハ路ノ遠近書翰ノ
 輕重ニ從ヒ夫々ノ印紙ヲ上封ノ端ニ張テ飛脚
 屋ニ投スレハ直ニ先方へ達ス此飛脚屋ト稱ス
 ルモノハ所謂飛脚印ヲ賣ル政府ノ飛脚場ニハ
 非ラス大抵市中一町毎ニ箱ヲ戶外ニ出セル家
 アリ此箱ニ書翰ヲ投シ漸ク集レハ同時ニ之ヲ
 諸方へ送ル但シ此飛脚屋ハ政府ノ飛脚場ニ屬
 スル者ニテ書翰ヲ送ル賃錢ハ政府ヨリ取ルナ
 リ○印紙ノ大ハ大抵七八分許其價ニ從テ色ヲ
 分テリ現今世界中ノ飛脚印凡ソ二千四百種ア

リト云フ各國互ニ飛脚ノ條約ヲ結テ双方ノ便
 ヲ為ス例へハ佛蘭西ヨリ英國へ書翰ヲ送ル者
 ハ佛ニテ價ハ「シ」ズノ印紙ヲ用ユ佛ノ飛脚場
 ヨリ龍動ノ港マテ之ヲ送り佛ノ政府へハ四「シ」
 一「ズ」ヲ取り龍動港ヨリ英國ノ諸方へ届ル為英
 ノ政府ニテ二「シ」ズヲ取ル合テ六「シ」ズナリ
 印紙ノ元價ハ「シ」ズヨリ六「シ」ズヲ引キ残り
 ニ「シ」ズコレヲ運送ノ賃錢雜費トス故ニ佛英
 ノ間ニ文通スレハ飛脚賃四分ノ三ハ兩國政府
 ノ利潤トナルナリ幣ノ名附録ニ出ス

西洋書翰 卷之二 三

國債

一 西洋各國貧富同シカラスト雖氏太平ノ内ハ歳入歳出大抵相平均スルヲ常トス若シ戦争ニ由テ非常ノ費アル内ニ令ヲ下シ政府ヨリ手形ヲ出シテ國人ノ金ヲ借ルルアリ之ヲ國債ト名ク但シ令ヲ下スト雖氏富商大賈ニハ必ス金ヲ出サシムルトノ趣意ニハ非ラス唯人々ノ意ニ任セ出スヲ好マレル者ハ捨テ問ハス又他國ノ人ニテモ金ヲ出サント云フ者アレハ拒マシテ之ヲ借ルル凡ソ西洋諸國ノ政府ニ國債

アラサルモノナシ英國ニテハ古來ノ國債次第ニ増加シ千八百六十二年ニ至テ其高八億九千四百萬ポントナレリ此利息ヲ一年三分ノ割合トシテ二千六百八十二萬ポントナリ國債ノ大抵三分ヨリ三分半ヲ通常トス四分以上ノ利息ハ甚稀ナリ政府ハ毎年此利息ヲ拂フノミニテ元金ヲ返スハ甚稀ナリ金ヲ出シタル者モ政府ノ手形ヲ所持シテ毎年三分ノ利息ヲ得レハ恰モ現金ニ異ナルヲナキラ以テ強テ元金ヲ返スヲ求メス故ニ此手形ハ國中ニテ互ニ賣買シ現金ノ代用トナスヲ紙幣ニ

西洋事情 卷之二

同シ然レモ其國ノ政體貧富又利息ノ高下ニ由
 テ手形ノ價各國同シカラス政府ヨリ年々必ス
 利息ヲ拂ヒ時トシテハ元金ヲモ返ス成ハ手形
 ノ相場自カラ貴シ政府貧ニシテ固ヨリ元金ヲ
 返サス年々ノ利息ヲモ十分ニ拂フ能ハサル
 歟又ハ利ヲ拂ヒ元金ヲ返ストモ其國ノ政法屢
 變革シ昔シヨリ國債全ク崩レタルアル國ニ
 テハ手形ノ價自カラ低シ左ニ二三例ヲ擧ク但
 シ此相場ハ去ル文久壬戌ノ年夏ノ新聞紙ニ出
 ルモノナリ

英國

國債八億九千四百萬ポンド 利三分
 手形ノ價九十三シテ九百三十兩トナルナリ

佛蘭西

國債九十五億二千九百萬フランシク 利三分
 手形ノ價七十

荷蘭

國債十億零三千五百萬ギルデシ 利四分
 手形ノ價百一〇荷蘭ニテハ手形ノ相場元價ヨ
 リモ貴シ其故ハ利息モ他國ヨリ高ク且政府ヨ

リ時々元金ヲ返シ古來國債ノ崩レタルトナケ
レハナリ昨年モ元金七百萬ギルゲシヲ返シタ
リト云フ

魯西亞

國債十六億二千萬

利三分四釐

手形ノ價七十

葡萄牙

國債甚多カラス

利三分

手形ノ價四十六

西班牙

國債ノ高大抵英國三分ノ一

利三分

手形ノ價五十兩ノ手形ヲ私ニ賣買シテ僅ニ五
知ルニ推テ

紙幣

西洋諸國大抵皆紙幣ヲ用ユ但シ其價五十兩或
ハ百兩以上ナルモノハ之ヲ銀坐手形ト名ツク
紙幣ト唱フルモノハ價一二兩許ニシテ市中日
常ノ賣買ニ用ユルモノナリ佛英蘭等ニハ紙幣
ナクシテ唯銀坐手形ノミヲ用ユ總テ紙幣及ヒ
手形ハ政府ノ銀坐ヨリ出タス此銀坐ニハ固ヨ

一 紙幣手形之ケノ現金ヲ備置クヘキ理ナレド
 一 法アリテ必シモ其元金ノ備ヲナサスシテ紙
 幣手形ヲ引替ルニ指支ハナカラシムヘシ其法
 何人ニテモ金ヲ貸サント欲スルモノアレハ官
 ノ銀坐ヨリ通法三四分ノ利息ヲ以テ之ヲ預リ
 其金ヲ以テ紙幣局ノ元金トナス故ニ政府ニテ
 ハ之カ為別ニ元金ノ用意ヲ為スヲナシ金主ヨ
 リ預ケ金ノ返濟ヲ願フハ即時ニ其元利ヲ返
 ス但シ出入ノ手數銀トシテ元金ニ釐五毛分四百
 一 官ニ収ム石ハ政府ヨリ建ル銀坐ノ法ナリ

商人ニテモ銀坐ヲ設テ手形ヲ出タスヲ免ス其
 法政府ノ銀坐ト同シ唯其異ナル處ハ商人ヨリ
 出タス手形ハ其通用人々ノ意ニ任セテ若シ之
 ヲ取ルヲ欲セサレハ強テ用ユルヲ得ス政府
 ノ手形ハ然ラス全ク現金ト同様ニテ國內ノ人
 民其通用ヲ拒ムヲ得ス

商人會社

西洋ノ風俗ニテ大商賣ヲ為スニ一商人ノ力ニ
 及ハサレハ五人或ハ十人仲間ヲ結テ其事ヲ共
 ニス之ヲ商人會社ト名ツク既ニ商社ヲ結ノハ

商賣ノ仕組元金入用ノ高年々會計ノ割合等一
切書ニ認メテ世間ニ布告シ「アクシ」ト云ヘル
手形ヲ賣テ金ヲ集ム其法例ハ商賣ノ元金百
萬兩入用ナレハ手形百萬枚ヲ作り一枚ノ價ヲ
一兩ト定メ自國他國ノ人ニ拍ハラヌ此手形ヲ
買フモノニハ商社ヨリ年々四五分ノ利息ヲ拂
ヒ且其商賣繁昌シテ利潤多クレハ右定タル利
息ノ外ニ別段ノ割合ヲ與フヘシトノ約束ヲ為
ス或ハ商社ニテ速ニ金ヲ集メント欲スルハ
定價一兩ノ手形ヲ三步又ハ三步ニ朱ニテ賣ル

「ト」モアリ手形ヲ買タル者ハ商社ヨリ隨意ニ元
金ヲ取返ストヲ得スト雖モ若シ一時ニ金ノ入
用アレハ世間相對ニテ手形ヲ賣ルヘシ且其商
賣ヨク繁昌シテ年々定式ノ利息ノ外ニ別段ノ
割合多クレハ手形モ自カラ高價トナリ最初百
兩ニテ手形百枚ヲ買タルモノモ世間賣買ノ相
場ニテ百三四十兩ニモ賣ルヘシ商人會社ヲ結
フニ其政府ニ告ケ官許ヲ受ケサレハ行方ヘカ
ラサルモノアリ即チ鐵路ヲ造リ傳信線ヲ通シ
通航ノ川ヲ堀ル等總テ其國ノ土地ニ關ルモノ

是ナリ此類ノ事ヲ為ス者ハ先ツ政府ニ願ヒ官
許ヲ受ケテ後初テ手形ヲ賣ル可シ官許ヲ受タ
ル商社ハ分散スルヲ得ス若シ此商社分散スル
ルハ其賣タル手形ノ代金ヲ政府ヨリ償フノ法
ナリ故ニ初ノ商社ヨリ政府ニ願フニモ其元金
ニ相當スヘキ引當ナケレハ官ヨリ商社ヲ結ヒ
手形ヲ賣ルヲ許サス○又商社ニ自分ノ元金ア
レ氏商賣ヲ企ルニ足ラスシテ其不足丈ケヲ手
形ニ作り金ヲ集ルコトアリ其法手形ヲ買タル者
ニ定リノ利息ヲ拂ヒ年々別段ノ割合ヲ與フル

ハ上ニ云ヘルモノト異ナルコトナシ、雖此商
社ハ既ニ金ヲ集メテ事ヲ始レハ其時ヨリ年々
手形ノ元金ヲ返ス譬ハ手形千枚ヲ賣レハ年
々五十枚宛ノ元金ヲ拂ヒ二十年ニテ元金皆濟
トナリ商賣ノ株ハ全ク商社ノ有トナルナリ手
形ノ元金ヲ拂フ法、手形千枚アルハ千枚ニ番号
ヲ附テ毎年闔ヲ取り此闔ニ當ル者ハ初メ手形
ヲ買タル大ケノ元金ヲ受取り商社ノ組合ヲ離
ル故ニ此手形ヲ世間相對ニテ賣買スル其元
金ヨリ高價ニ買フモノアル氏若シ之ヲ買テ其

年或ハ翌年ニモ右ノ聞ニ當リ手形ノ元金ヲ受
取テ商社ノ組合ヲ離レハ高價ニ買ヒシタケ其
者ノ損亡トナルナリ
右ハ西洋各國ニ行ハル、商社ノ通法大略ナリ
總テ商船ヲ造テ外國ト交易シ飛脚船ヲ以テ世
界中ニ往來シ為替問屋ヲ設テ各國ト互ニ取引
ヲ為シ鐵路ヲ造リ製造局ヲ建テ瓦斯燈ヲ設ル
等ノ大商賣ヨリ國內ノ諸商賣ニ至ルマテ皆此
商社ノ為ス所ナリ

外國交際

西洋ノ諸國ハ其風俗言語各異同アルニ新ニ開
タル支那日本ノ風俗ト西洋ノ風俗ト相異ナル
カ如クトラス其各國交際ノ模様ヲ譬テ云ヘハ
日本ノ諸侯ノ國々ニテ互ニ附合スルカ如シ各
國ノ人民此彼相往來シテ商賣ハ勿論婚姻ヲモ
取結ヒ其君主モ互ニ好ヲ結ヒ吉凶相賀吊シ緩
急相救ノノ風ナリ然レモ元何レモ獨立ノ國ニ
テ制度一様ナラカ故ニ其爭端ヲ防ク為各
國互ニ約束ヲ結テ懇親ヲ固クシ交易ヲ便ニス
ルモノ之ヲ條約ト名ツク既ニ條約ヲ結ハ此

國ヨリ彼國へ全權ノモノ一人ヲ遣テ其都府へ
在留セシメ交際ノ事務ヲ商議セシムル者之ヲ
ミニストルト稱スミニストルトノ職掌ハ條約ノ
大義ニ基キ兩國ノ親睦ヲ保全スルヲ趣旨トセ
リ故ニ交際上ニ争端ヲ起シ和親ノ破レントス
ルニ至ルモ之ヲ周旋シテ再ヒ平和ニ挽回スル
ハミニストルトノ功ナリ又外國ノ交易場ニ於テ
自國商人ノ取締ヲ為シ交易ノ事ヲ周旋セシム
ルタメ官吏一人宛ヲ置ク之ヲコンシユルト名ツ
ク故ニ一國一遣差スルミニストルトハ一名ナレ



此コンシユルトノ員數ハ其國交易場ノ數ニ準シテ
多寡アリ

兵制

一 往昔歐羅ノ諸國ハ封建世祿ノ制度ヲ以テ臣下
ヲ養ヒ各國ノ帝王互ニ相攻メ國內ノ貴族互ニ
相闘ヒ專ラ武ヲ重ンシテ文ヲ勉メス守ヲ知ル
モノハ唯僧徒ノミ凡ソ國內ノ人騎馬ノ戦士ニ
非ラサルヨリ以下ノ者ハ之ヲ輕蔑スルヲ甚シ
且其戦闘ニ於ケルモ劍戟一人ニ敵スルヲ以テ
功名ト為シ所謂兵法ナルモノナシ其戦法武人

階級ヲ三ツニ分チ貴族ハ必ス馬ニ騎シテ重大
 ノ兵器ヲ携ヘ其次キノ者ハ輕使ナル兵器ヲ携
 フ、輕兵ヲ以テ戰ヲ開キ重兵ヲ以テ之ヲ支ユ第
 三等ハ歩兵ニテ其兵器ハ槍劍弓矢ナリ
 千三百年代火器ヲ發明シテ之ヲ戰爭ニ用ユル
 ニ至テ歐羅巴ノ兵制一變セリ各國ノ貴族等火
 器ヲ以テ卑賤ノ具トシ之ヲ蔑視シテ携ヘサレ
 氏事ニ臨テ敵ニ近ツクコトヲ得ス百歩ノ外ニ在
 テ一小彈ノ為ニ斃サルコトアリコレヨリ世人
 匹夫ノ勇ヲ貴ハスシテ智術ヲ重ンシ貴族武人

勢大ニ衰ヘタリ然レモ貴族等ハ尚遊怠ノ風
 ニ慣レテ躬カラ事物ヲ研究スルヲ好マス乃チ
 一法ヲ設ケ給金ヲ出シテ人ヲ雇ヒ新發明ノ砲
 術ヲ學ハシメテ戰ニ用ヒタリ之ヲ兵卒ノ初ト
 ス兵卒ハ英語ニテソルギート云フソルギー
 此トハ給金取りノ義ナリ
 前条ノ如ク火器ノ發明ヨリシテ遂ニ兵卒ヲ雇
 フノ法ヲ立テ古來世祿ノ制度次第ニ止ミ且文
 武ノ職掌初テ相令レタルハ當ニ兵備ノ改正ノ
 ニ非ラス國政ノ一大變革ト云フヘシ爾後ハ

唯兵卒ノ多寡ヲ以テ國ノ強弱ヲ競フカ故ニ太
平ノ時モ給金ヲ與ヘテ兵卒ヲ養フノ風俗トナ
リ千四百五十年佛蘭西王第七世チャールズ英國
ト戰テ勝テ後患ヲ恐レテ國中ノ貴族ニ命シ平
常ノ時モ兵卒ノ備ヲナサシメタリ之ヲ常備兵
ノ初トスコレヨリ各國ニテモ其法ニ效テ今日
ニ至ルマテ皆常備兵アリ
兵卒タラシ者ハ其業前ヨ巧ニセサレハ給金ヲ
得サルニ由リ皆爭テ之ヲ鍛練シ且之ヲ任用ス
ル君將モ用兵ノ新法ヲ發明シテ敵ニ勝タント

欲シ無事ノ時モ兵卒ヲ集メテ戰爭ノ誓古ヲナ
ス即チ調練ノ初ナリ調練ノ法ヲ立テタルハ千
五百年代ノ末、荷蘭合衆政治ノ大統領マウリッ
ヲ以テ始祖トス
右ノ如ク常備兵ヲ設ケ平日調練ヲ怠カラスト
雖氏步兵騎兵、坐作進退ノ法未ダ整ハスシテ戰
争ノ際、動モスレハ混雜ヲ生スルヲアリ千六百
年代ノ初ニ瑞典王グスターフノ測量窮理ノ學ニ
達シ用兵ノ才略ニ富テ諸兵運動ノ法ヲ立テ小
銃隊ヲ改正シ人數ヲ密ニ列子テ同時ニ發砲ス

ルヲ發明シ從來ノ輕砲隊ニ重砲ヲ交ヘ騎兵ノ廢シタルヲ再興シ步騎砲三兵ノ活法初テ整齊セリ

ゴスタロズノ後ハ各國ニテ火器ノ數日ニ増加シ其用法益盛大ト為リ天下ノ利器銃砲ノ石ニ出ルモノナシ千七百五十年ノ頃普魯士王第二世フレデリキ文武兼備ノ英才ヲ抱テ世ニ出テゴスタロズノ餘業ヲ繼テ專ラ意ヲ火器ニ用ヒ新規ノ工夫ヲ運ラシテ舊法ノ闕ヲ補ヒ數年ニシテ普魯士國ノ軍法俄ノ進歩シ其威名歐羅巴

全州ニ轟テ之ヲ恐怖セタルモノナシコレヨリ各國皆普魯士ノ法ヲ採用シ世ノ兵制更ニ一變セリ此時ニ當テ算數測量ノ學漸ク明ニシテ陣列進退ノ法ヲ節スルニモ數學ノ理ニ基ヒテ其遲速ヲ定ム蓋シ樂器ヲ鳴ラシテ兵卒ノ歩法ヲ節スルヲモアレデモキノ時ヨリ始レリ歩兵ノ陣列ハ前後三人並ビノ横陣トナシ小銃ニ玉込ヲナスニ鉄ノ込矢ヲ製シ火門ノ形ヲ改メテ口藥ヲ用ヒス之ニ由テ大ニ急發ノ便利ヲ増シ野戰砲ヲ輕便ニシ騎兵ノ甲冑ヲ輕クシ戰鬪ノ

法總テ猛烈迅速ヲ趣旨トス騎馬ヲ以テ大砲ヲ引クトモ當時ノ發明ナリ但シ散兵ヲ用ユルハ亞米利加合衆國獨立ノ帥ヲ初トス當時戰爭ノ地ハ山林多ク亞米利加人散兵ヲ用ヒテ屢英人ヲ窘メタリト云フ

フレデリックノ後ニ天下ノ兵制ヲ一新シタル者ハ千八百年代ノ初佛蘭西帝拿破崙ナリコレヨリ先キ歐羅巴ノ兵ハ唯雇ヒ人足ヲ戰場ニ驅逐スルノミニテ或ハ死物ヲ用ユルニ齊シキノ弊ナキニ非ラス拿破崙コノニ注意シ國內ノ人ヲ

盡ク兵武ニ用ヒ國民自ラ國ノ為ニ戰フノ趣旨ヲ以テ法ヲ立テ將士ヲ愛シ兵卒ヲ惠シ有功ノ者ヲ賞スルニハ一擲千金モ亦少惜ム所ナシコトニ於テ人々皆報國盡忠ノ心ヲ抱キ戰ニ臨テ死ヲ顧ミス之ヲ分テ散兵トナセハ一人ノ力ヲ盡シ之ヲ合シテ密隊トナセハ先ヲ争テ敵ニ向ヒ兵ヲ用ユルヲ手足ノ如ク進退意ニ隨ハサルハナシ是レ拿破崙ガ拔山蓋世ノ勢ヲ以テ歐羅巴全州ヲ壓倒セシ所以ナリ現今西洋諸國ノ兵法ハ皆拿破崙ニ擬ルト云フ

右ハ西洋ノ兵制沿革ノ大略ナリ其詳ナルハ三
兵活法等ノ諸書ニ就テ見ルヘシ

文學技術

一 住古希臘ノ學一度衰へ之ヲ恢復シタルモノ
ハ亞喇伯人ニテ其科ハ專ラ測量學醫學理學ヲ
勉メリ西洋學術ノ大趣意ハ萬物ノ理ヲ究メ其
メニ人ヲ用テ明シテ天稟ノ智力ヲ盡サハルニ在
リ夫ノ簡徳正行ノ道ノ如キハ別ニ其教アリテ
ト云フ再後歐羅巴諸邦ニテ文學技術ノ開ケ
タルハ皆亞喇伯人ノ賜ナリト云フ千二百年代
ノ央ニ及テ英國ノ僧ニコロゼルバールコンナル

者アリ博識多才古來遵奉セル究理ノ道ヲ以テ

不足ナリトシ初テ實驗ノ說ヲ唱ヘ天文視學光線

ノ性質ヲ論シ目鏡望遠化學萬物ノ性質ヲ探索

鏡等ノ組立ヲ説ク學科ニテ之ヲ分析シ調

合スル醫學器械學等ノ大略ヲ發明シテ一時大

學者ト稱セリ然レ氏當時尚草昧ノ世ニテ此大

學者ト雖氏長命ノ神丹ヲ鍊リ諸種ノ金屬ヲ黃

金ニ變化セントテ力ヲ費シ星行ヲ見テ吉凶ヲ

占スル等ノ奇談アリ○コレヨリ十四百年代ニ

至ルマテハ世ノ學者詩歌ヲ玩ヒ小説ヲ悦テ實

學ヲ勉ルモノ少シ千四百二十三年版刺ノ發明

アリシ後モ文學大ニ進歩シ經學、性理、詩歌、歴史ノ學ハ其盛美ヲ極ノタレ氏獨リ究理學ニ至テハ然ラス世人皆古聖アリスト紀元前三百年代希臘ノ大學流ニ心酔シ附會奇異ノ神說ヲ唱ヘテ有用ノ實學ニ志スモノナク千六百年ノ頃ニ至ルマテモ其形勢依然タリ此時ニ當テフランシス、バロコンデス、カルテス等ノ賢哲世ニ出テ專ラ試驗ノ物理論ヲ唱ヘテ古來ノ空談ヲ排シ千六百六年ニハ伊多利ノ學者ガリレオ初テ地動ノ說ヲ建テ千六百十六年ニハ英國ノ醫師ハ

ルフ井人身體血液運行ノ理ヲ發明スル等世ノ學風漸ク實際ニ赴ク千六百年ノ末英國ノ大家ニコトン千古不世出ノ英才ヲ以テ日新ノ世ニ生レ齡未タ二十四歳ニ滿タス大空ニ行ハルハ引力ノ理ヲ發明シ地球ノ引力ハ前光線ノ功用ヲ說キ物色ノ根源ヲ明ニシ造化ノ秘訣一トシテ明了ナラサルハナシ其著述「プリンシピア」ト題セル書ハ究理學ノ大本ヲ説クモノニテ世ノ學者皆之ヲ宗トスコレヨリ西洋ノ學風更ニ一面目ヲ改メ衆傑輩出シテニコトン氏ノ余業ヲ

繼キ切瑳琢磨今日ノ盛ナルニ及ヘリ千七百年
代ノ初ヨリ現今ニ至ルマテ大發明ト稱スヘキ
モノハ蒸氣機關、蒸氣船、蒸氣車、傳信機、牛痘、麻布
綿布ノ染形、紡績織物ノ機關、石版、瓦兒華尼鍍金
同模形、避電線、瓦斯光、空船等是ナリ此外越列機
瓦兒華尼ノ論說、視學、天文學ニ就テ改正ヲ加ヘ
新器械ヲ發明シタルヲ枚舉スルニ違テラズ

學校

西洋各國ノ都府ハ固ヨリ村落ニ至ルマテモ學
校アラサル所ナシ學校ハ政府ヨリ建テ教師ニ

給料ヲ與ヘテ人ヲ教ヘシムルモノアリ或ハ平
人ニテ社中ヲ結ビ學校ヲ建テ教授スルモノア
リ人生レテ六七歲男女皆學校ニ入ル或ハ校ニ
止宿スル者アリ或ハ家ニ眠食シテ毎日校ニ行
ク者アリ初テ入ル學校ヲ小學校ト云フ先ツ文
字ヲ學ビ漸クシテ自國ノ歴史、地理、算術、天文、窮
理學ノ初步、詩、画、音樂等ヲ學ブ斯ノ如クスル
七八年諸學漸ク熟シ又大學校ニ入ル此學校ニ
テモ學科以前ト異ナラスト雖比稍高上ノ教ヲ
受ク且此所ニテハ盡ク諸科ヲ學ハスシテ各其

志ス所ノ一二科ヲ研究ス或ハ暫クコ、ニ入り
兵家ヲラント欲スレハ兵學校ニ移リ醫師ヲラ
ント欲スレハ醫學校ニ移リ專ラ一業ノミヲ勉
ル者アリ石ノ如ク六七歳ヨリ初テ學ヒ十八歳
若クハ二十歳ヲ成業ノ年齢トス右ハ大小學校
ニ入ル一般ノ順序ナレバ或ハ一所ノ學校ニテ
大小相兼ルモノアリ龍動^リキングス^ルコル^レレ^ージ
府中^最モ^大ナ^ノ如キハ學生五百人余アリテ樓
上ハ大學校ノ教ヲ授ケ樓下ハ小學校ノ教ヲ設
ク○毎日教授ノ時ハ朝第九時ヨリ始リ第十二

時ニ終リ中食シ午後第二時ヨリ晚第五時ニ終
ル七日毎ニ一日休業寄宿生皆家ニ歸ル學校ノ
法ハ最モ嚴正ナリ教授ノ間言語セス親指セス
法ヲ犯ス者ハ罰アリ然レバ間時ハ隨意ニ遊ソ
フヲ禁セス是カタメ學校ノ傍ニハ必ス遊園ヲ
設テ花木ヲ植ヘ泉水ヲ引キ遊戯奔走ノ地トナ
ス又園中ニ柱ヲ立テ梯ヲ架シ綱ヲ張ル等々設
ヲナシテ學童ヲシテ柱梯ニ攀リ或ハ綱渡リノ
藝ヲナサシメ五禽ノ戯ヲ為テ四肢ヲ運動シ苦
學ノ鬱閉ヲ散シ身體ノ健康ヲ保ツ○一歳ノ學

費ハ各國大同小異但シ學校ノ良否ト教ヲ受ル
學科ノ多寡ニ由テ一樣ナラス又貧人其子ヲ教
ルヲ能ハサル者ハ一種ノ學校アリテ學費ナク
教ヲ受クヘシ此學校ノ費ハ租稅ノ如クシテ國
民ヨリ出サシムルモノアリ或ハ有志ノ人會社
ヲ結テ自カラ金ヲ出シ又ハ國中富貴ノ人ニ說
テ金ヲ集メ貧學校ヲ建ルヲアリ○歐羅巴ニテ
文學ノ盛ナルハ普魯士ヲ以テ第一トス國內ノ
人民大抵字ヲ知ラザル者ナシ別林バール普魯士
獄屋ノ内ニモ學校ヲ設ケ三四日毎ニ罪人ヲ出

シテ教授ス他ハ推テ知ルヘシ

新聞紙

一新聞紙ハ會社アリテ新ラシキ事情ヲ探索シ之
ヲ記シテ世間ニ布告スルモノナリ即チ其國朝
廷ノ評議官命ノ公告吏人ノ進退市街ノ風説外
國ノ形勢學藝日新ノ景況交易ノ盛衰耕作ノ豐
凶物價ノ高低民間ノ苦樂死生存亡異事珍談總
テ人ノ耳目ニ新ラシキ一ハ逐一記載シテ圖画
ヲ附シ明詳ナラサルハナシ其細事ニ至テハ集
會ノ案内ヲ為シ開店ノ名ヲ弘メ失物ヲ探索シ

拾々物ノ主ヲ求ムル等皆新聞紙局ニ託シテ其
次第ヲ記ス故ニ一室ニ閉居シテ戶外ヲ見ス萬
里ノ絕域ニ居テ鄉信ヲ得サルモノト雖氏一度
ニ新聞紙ヲ見レハ世間ノ情實ヲ摸寫シテ一目
瞭然恰モ現ニ其事物ニ接スルカ如シ西人新聞
紙ヲ見ルヲ以テ人間ノ一快樂事トナシ之ヲ讀
テ食ヲ忘ルト云フモ亦宜ナリ凡ソ海内古今ノ
書多シト雖氏聞見ヲ博クシ事情ヲ明ニシ世ニ
處スルノ道ヲ研究スルニハ新聞紙ヲ讀ムニ若
クモノナシ○新聞紙ハ每日出版スルモノアリ

七日ニ一回出版スルモノアリ西洋諸國及ヒ海
外ノ地ニテモ西人ノ居留セル地ニハ必ス之ヲ
出版スルモノアリ其最モ盛ニ行ハルハ英國
ノ龍動亞米利加ノニューヨークヲ天下第一トス
龍動ニテハ萬國ノ新聞ヲ集メ自國ノ新聞ト共
ニ記シテ世界中ニ布告ス所謂龍動新聞ナリ新
聞紙ノ報告ハ速ナルヲ趣意トシ蒸氣機關ヲ以
テ版ヲ摺リ一時間ニ一萬五千枚ヲ得ヘシ制本
終レハ蒸氣車蒸氣船等ノ急使ニテ諸方ニ達ス
其神速ナルヲ人ノ耳目ヲ驚カス一例ヲ擧クル

西洋事情 卷之一
ニ嘗テ龍動ノ議事院ニ終夜大議論アリテ曉第
四時^七ニ終リシトキ即時ニ議事ノ次第ヲ記シ
出版シテ國中ニ布告シ同日第十二時^九ニハ百
里外ノブリストルニ達セシ^一アリ○新聞紙ノ
説ハ其國ニ由リ其人ノ意見ニ從テ偏頗ナキニ
シモアラサレ^元官許ヲ受ケ出版スルモノニ
テ其議論公平ヲ趣百トシ國ノ政事ヲ是非シ人
物ヲ褒貶スル^一妨ナシ故ニ世人皆之ヲ重シシ
其大議論ニ由テハ一時人心ヲ傾ケ政府ノ評議
モ之カ為^變革スル^一アリ譬ハハ此國ニテ師ヲ

起シ彼國ヲ攻メントノ評議アル^ハ彼國ノ人^一理
非曲直ヲ辨論シ之ヲ新聞紙ニ載テ世上ニ布告
スレハ師ヲ止ルノ一助トモナルヘシ

文庫

西洋諸國ノ都府ニハ文庫アリ^ハブリオテ^一キ
ト云フ日用ノ書籍圖画等ヨリ古書珍書ニ至ル
マテ萬國ノ書皆備リ衆人來リテ隨意ニ之ヲ讀
ムヘシ但シ毎日庫内ニテ讀ムノミニテ家ニ持
歸ルコトヲ許サス龍動ノ文庫ニハ書籍八十萬
卷アリ^{彼得堡}魯西亞ノ文庫ニハ九十萬卷巴理

斯ノ文庫ニハ百五十萬卷アリ佛人云フ巴理斯
文庫ノ書ヲ一列ニ並ルキハ長サ七里ナルヘシト
○文庫ハ政府ニ屬スルモノアリ國中一般ニ屬
スルモノアリ外國ノ書ハ之ヲ買ヒ自國ノ書ハ
國中ニテ新ニ出版スル者ヨリ其書一部ヲ文庫
ニ納メシム

病院

病院ハ貧人ノ病テ醫藥ヲ得サル者ノ為ニ設ル
モノナリ政府ヨリ建ルモノアリ私ニ會社ヲ結
テ建ルモノアリ英國及ヒ合衆國ニ建ルモノ
此法最モ多シ

ハ社中ヨリ王公貴人富商大賈ニ説テ寄附ヲ請
ヒ病院既ニ成ル後モ尚年々定タル寄附ノ金高
ヲ集メテ長ク病院ヲ持續ス又病院ニ入ル者モ
極貧ノ者ハ全ク費ヲ出サ、レハ稍産アル者ハ
貧富ニ應シテ醫藥ノ費ヲ拂フ、各國ノ首府都會
ニハ病院アラサル所ナシ○病院ノ法ハ各國大
同小異左ニ佛蘭西病院ノ法ヲ示ス
巴理斯ニ病院大小十三所アリ一院附屬ノ醫師
各、八人ヨリ十五人最モ大ナル病院ニハ三十人
アリ介抱人ハ男女兩様アリテ男子ハ病男ニ屬

シ婦人ハ病婦ニ屬ス病人五十人ニ介抱人十名
ヲ附ルヲ定則トス又ハシト稱スル者アリコレ
ハ老若婦人不幸ニ遇フ歟又ハ他故アルモノ神
明ニ誓テ若干年ノ間病者ヲ扶ケント自カラ約
シ其年期内ハ男女ノ交ヲ絶チ清潔ヲ守ルコト
本邦ノ尼ノ如クシテ病院ニ入ル者ナリ故ニ此
ハシハ病者ヲ介抱スルニ男女ヲ辨セス卧床ニ
近ツクヲ妨ナシ又ハシハ固ヨリ自カラ好テ院
ニ入ルモノナルカ故ニ俸金ヲ受ケヌ唯衣食ノ
給ナルノミ院ニ留ル時日モ定限ナク今日院ニ

入ルトモ意ニ適セサレハ明日出ルヲ得○十三
院各所ニ布在スト雖王宮ノ近傍ニ官ノ役所
アリテ官ヨリ吏人ヲ置キ總病院ヲ支配ス故ニ
都下ノ人民病院ニ行ント欲スル者ハ先ツ此役
所ニ至リ官ノ免許ヲ受ケテ然ル後病院ニ入ル
○病院ノ費用ハ總テ政府ヨリ出ツルヲナシ初
メ之ヲ建ルルハ都下ニ命ヲ下シ各戸ヨリ貧富
ニ應シテ出銀セシメ其後院ヲ脩理シ或ハ病者
ニ與フル藥品衣服ノ價及ヒ婢僕給料等ノ費ハ
左ノ法アリテ金ヲ集ム

第一 都下ノ人各其志ニ從テ病院ニ金ヲ納ル
ト本邦ノ寺社ニ寄附スルカ如シ

第二 都下ノ芝居見セ物其外遊樂ヲ以テ利ヲ
得ルモノハ得ル所ノ金十分ノ四ヲ病院ニ納メ
シム

第三 貧困未タ甚シカラサレモ自家ニ醫師ヲ
招クノカナクシテ病院ニ入ル者ニハ醫藥ノ價
トシテ一日ニ二「フラン」ク乃至四五「フラン」クヲ
納メシム

第四 政府ヨリ貸附所ヲ建テ質物ヲ取ル其法

一年ヲ期限トナシ利息六分ヲ收ム品物ヲ質入
シタル者期限ニ至テ金ヲ償ハサレハ其物ヲ出
シテ糶賣トナス例ハ初ノ質入レシタル氏百
兩ヲ貸シタル品物糶賣ニテ百三十兩トナレハ
一年百兩ノ利息六兩ヲ引キ残り二十四兩アリ
之ヲ病院ノ費用トス

第五 西洋諸國ニハ養子ノ法ナシ故ニ父母妻
子ナキモノ死スレハ其家産盡ク近キ親屬ニ歸
ス若シ親屬モナクシテ家産歸スル所ナキ氏ハ
之ヲ政府ヘ收テ病院ノ費用ニ供ス

右ハ佛蘭西病院ノ通法ナレハ海陸軍病院ノ如
キハ其費用全ク政府ヨリ出ツ

貧院

一老院ト云ヒ幼院ト云ヒ之ヲ總稱スレハ貧院ナ
リ老幼或ハ身體不具ナル歟若シクハ虚弱ナル
者貧困ニシテ活計ナキトキハ之ヲ貧院ニ入レ
老人ハ終身コヽニ養ヒ幼少ノ者ハ學術技藝ヲ
教ヘ年十八歳若シクハ二十歳トナリ活計ノ方
ヲ知ルニ至テ之ヲ出タス或ハ中年ノ者ト雖モ
貧困極ルキハ暫ク院ニ入テ急ヲ凌キ活計ノ方

ヲ求テ再ヒ出ツル者アリ又貧人子ヲ生ミ之ヲ
養育スレハ毎日職業ノ妨トナリ之カ爲窮スル
者ハ晝間ノミ其子ヲ院ニ預ケ置キ夜ハ家ニ連
レ歸ル者アリ○貧院ノ内孤院ト稱スル院アリ
貧兒ノ父母ナキ者ノミヲ集メテ養フ所ナリ又
棄兒院ナルモノアリ貧人ノ子ヲ養フコト能ハ
サルモノ或ハ貧人ニアラスト雖モ密通シテ子
ヲ生ミ之ヲ公ニスヘカラサル者ハ皆其子ヲ棄
兒院ニ棄ツ西洋ニテ密通ハ固ヨリ嚴禁ナレモ
藥ヲ用テ脱胎スル者ハ其罪密通ヨリ重シ且子

ヲ棄ルトキモ固ヨリ公ニハセサレモ子ヲ棄ル
 ヲ見テ之ヲ咎ル者ナシ院ノ戶外ニ鈴アリテ子
 ヲ棄ル者戶外ニ子ヲ置キ鈴ヲ鳴ラシテ去レハ
 院ヨリ出テ其子ヲ拾テ之ヲ棄ル者ヲ問ハス既
 ニ院ニ入レハ衣服ヲ與ヘ乳母ヲ附ケ丁寧ニ養
 育シテ次第ニ成長スレハ其才ニ應シテ學術技
 藝ヲ教ヘ活計ノ方ヲ知ルニ及テ之ヲ出タス棄
 兒院ハ魯西亞ニテ最モ之ヲ重シシ院ノ費用全
 ク政府ヨリ出テ棄兒養育ノ法甚厚シ蓋シ魯西
 亞ハ土地廣ク人口少キ故ナリ○貧院ハ政府

ヨリ建ル者アリ又平人私ニ會社ヲ結テ建ルモ
 ノアリ龍動府中ニ貧院大小四十所アリ最大ナ
 ル院ニハ四百人ヲ置クヘシ四十所ノ内政府
 ニ屬スルモノハ僅ニ四五ノミ政府ニ屬スル貧
 院ノ費用ハ府中ノ戸毎ニ定式家税ノ外貧院税
 ト唱ヘ金ヲ出サシム私ニ會社ヲ結テ貧院ヲ建
 ル法ハ病院ヲ建ル法ト同シ二三ノ富人相謀テ
 一貧院ヲ建ント欲スレハ其趣意ヲ述ヘ新聞紙
 ニ記シテ周ク布告シ世人ノ此社中ニ加ハラシ
 ヲ願フ世間此新聞紙ヲ讀ミ富テ仁ナルモノ

ハ社中ニ入り毎年若干ノ金ヲ出サント約ス若シ此金ニテ初メ貧院ヲ建立スルニ足ラサレハ尚又富貴ノ人ニ説テ寄附ヲ請ヒ院既ニ成レハ頭取ヲ立テ、其取締ヲナサシムコレヨリ毎年ノ費用ハ社中ヨリ出タシ又院ニ養フ者ニモ遊怠ニ日ヲ消セシメヌ男子ハ籠子ヲ作り繩ヲナヒ婦人ハ洗濯シヨリヤヒヲ作ル等相應ノ手業ヲ為サシメ其利潤ヲ以テ院ノ入用ニ供ス又貧院社中、毎年一度大ニ會食スル例アリ此會席ノ前、數日新聞紙ヲ出シ某日某處ニ貧院社中ノ集

會ヲ催フスヘキニ由リ何人ニテモ來テ共ニ會食スヘシト布告ス世人此新聞紙ヲ見テ志アル者ハ其會ニ行キ共ニ飲食シ各其意ニ隨ヒ多少ノ金ヲ投シテ歸ル此金モ亦一歲ノ費用トナル

啞院

啞院ハ啞人ヲ教ユル學校ナリ啞子數百人ヲ集メテ語學算術天文地理學等ヲ教授スルヲ尋常ノ學校ト異ナルナシ其法初テ院ニ入ル者ニハ指ヲ以テ「エ、ビ」シ二十六文字ノ記號ヲ為スヲ教ユ指ノ形ヲ色々ニシテ文字ノ記號ヲ為シテエ様ノ形ヲ日本人ノ拳ヲ打ッ手様ノ如シ次テ

他人ノ言フ其唇舌齒喉ノ運動ヲ見或ハ之ヲ
 觸レ其運動ノ機ヲ效テ音聲ヲ發スルヲ學ハ
 シム既ニ音聲ヲ發スルヲ學ハ他人ノ言ヲ
 耳ニ聞クヲ能ハスト雖氏唇舌齒喉ノ動機ヲ見
 テ其語ヲ解シ共ニ談話スル得テ發スル天性音聲
 具ハラサルニ非ラス唯耳ノ不具ナルニ由テ人
 ノ言語ヲ聞キ之ニ效テ五音ヲ調和スルヲ能ハ
 サルモナリ其證據ニハ喜笑哀哭ノ
 聲ハ啞子ト雖凡常人ト異ナルヲナシ

盲院
 盲院ノ法モ大抵啞院ニ同シ盲人ニ讀書ヲ教ル
 ニハ紙ニ凸ノ文字ヲ印シ地圖等ハ針ニテ紙ニ

孔ヲ穿テ海陸ノ形ヲ畫キ指端ニテ之ヲ觸レ
 シム算術ニモ別ニ器械アリ其形ヲ算木ノ如シ
 之ヲ轉用シテ加減乘除ヨリ天文測量ノ難算ニ
 至ルマテ成ラサルモノナシ此外盲人ノ學ノ事
 業ハ男女共ニ音樂ヲ勉ム又男子ノ手業ニハ機
 ヲ織リ籠子ヲ造リ婦人ハメリヤスヲ組ム其品
 物ハ市ニ賣テ院ノ費用ニ供ス英國ニテ盲院ニ
 入ルモノハ長幼ニ拘ハラス教授スルヲ六年ヲ
 限トス此年限中ニ學術大抵成業ニ及ヘトモ貧
 ニシテ活計ナキ者ハ尚小院内ニ留テ養ハルヲ

許ス但シ年限ヨリ長ク養ハル、モノハ手業ヲ
勤メサルヲ得ス○盲院モ他ノ諸院ノ如ク富メ
ル者ハ學費ヲ拂ヘトモ貧シキ者ハ之ヲ出タサ
スシテ院ニ入ルヘシ

癲院

一癲院ハ發狂セル者ヲ養ヒ治療スル病院ナリ患
者一人毎ニ一室ヲ與ヘ病症ノ輕キ者ハ書間室
ヨリ出シ院内ヲ歩行シ或ハ庭園ニ遊テ花ヲ採
リ或ハ歌舞シ鞠ヲ玩ヒ或ハ繪ヲ畫ク者アリ或
ハ音樂スル者アリ院内殊ニ清楚ニシテ他諸院

ト異ナリ諸處ニ小禽ヲ飼ヒ金魚ヲ養ヒ鉢物ヲ
置ク等總テ閑靜幽微ノ風致ヲ設ケテ人意ヲ樂
マシムルヲ主トス此院ハ發狂人ヲ療治スルノ
ミニ非ラス或ハ狂心ニテ人ヲ殺シ或ハ火ヲ放
テ家ヲ燒クル者等皆此院ニ入ル但シ狂心ニテ
モ死罪ヲ犯シタル者ハ其病平癒ノ後モ外ニ出
タサスシテ癲院内ニ身ヲ終ラシムト成ノ夏余
カ龍動ノ癲院ニ行キシ片モ此類ノ狂人三名ヲ
見タリ一人ハ國王ヲ弑セントシ一人ハ其父ヲ
殺シ一婦人アリ自カラ三子ヲ殺セリト云フ

痴兒院

一 痴兒院ハ兒童ノ天稟智惠ナキモノヲ教ユル學
校ナリ讀書算術等ヲ教ユルモ尋常ノ學校ト同
シカラズ書ハ皆大文字ヲ用ユ語ヲ教ユルニモ
繪ニ由テ解サシム例ハ犬ト云フ字ヲ教ユル
ニハ犬ノ繪ヲ画キ買ト云フ語ヲ教ユルニハ物
ヲ買フ模様ヲ画キ繪ノ傍ニ其語ヲ附シ幾度モ
之ヲ讀テ漸ク解サシム遂ニ讀書ニ導ク算術ヲ
教ユルモ初ハ形ヲ以テ種々ノ器アリ且今
其一ヲ擧ク教師小丸數個ヲ持テ二個ヲ出シテ

衆痴兒ニ示シ此丸ハ幾個アルヤト問フ答曰二
個又二個ヲ加ヘ幾個ナルヤト問フ答曰四個又
問フ此四個ニ三個ヲ加ヘテ幾個トナルヤ三個
ヲ加ヘテ一個ヲ引ケハ幾個トナルヤ此總數ヲ
二ニ分テハ幾個ナルヤト一問一答次第ニ教導
シテ遂ニハ物ノ數ヲ知リ筆算ヲモナシ得ルニ
至ル讀書算術ノ外本邦ノ智惠ノ輪、智惠ノ板ノ
類ヲ玩テ工夫ヲ用ルヲ教ユ智惠ノ板ノ最モ
簡約ナルモノハ廣キ版ニ方圓屈曲ノ穴ヲ穿テ
此穴ニ符合スル小板ヲ作テ之ヲ穴ニ相テ方圓

屈曲ヲ分ツ工夫ヲナサシム此外女子ニハ歌舞
ヲ教ヘ男子ニハ樹ニ攀リ梯子ニ登リ或ハ訓練
ノ真似ヲナサシメ身體ヲ強壯ニス○此學校ア
ル國ハ現今只佛蘭西、荷蘭、普魯士ノミニテ他國
ニハ未ダ之ヲ建テスト云フ

博物館

一博物館ハ世界中ノ物産古物珍物ヲ集メテ人ニ
示シ見聞ヲ博クスル爲ニ設ルモノナリ「ミ子ラ
ロジカル、ミヂエ」ト云ヘルハ礦品ヲ集ムル館
ナリ凡世界中金石ノ種類ハ盡ク之ヲ集メ各其

名ヲ記ルシテ人ニ示スゾ「ロシカル、シヂニ」
ト云ヘルハ禽獸魚蟲ノ種類ヲ集ムル所ナリ禽
獸ハ皮ヲ取り皮中ニ物ヲ填テ其形ヲ保チ魚
蟲ハ藥品ヲ用テ其儘干シ固ク之ヲ皆生物ヲ見ル
カ如シ小魚蟲ハ火酒ニ浸セルモノモアリ○又
動物園植物園ナルモノアリ動物園ニハ生ナカ
ラ禽獸魚蟲ヲ養ヘリ獅子、犀、象、虎、豹、熊、狐、狸、猿、
兔、駝、鳥、鷲、鷹、鶴、雁、燕、雀、大蛇、蝦、蟻、總テ世界中ノ珍
禽奇獸皆此園内ニアラサルモノナシ之ヲ養フ
ニハ各其性ニ從テ食物ヲ與ヘ寒温濕燥ノ備ヲ

ナス海魚モ玻璃器ニ入レ時々新鮮ノ海水ヲ與
 ヘテ生ナカラ貯ヘリ植物園ニモ全世界ノ樹木
 草花水草ノ種類ヲ植ヘ暖國ノ草木ヲ養フニハ
 大ナル玻璃室ヲ造リ内ニ鉄管ヲ横ツヘ管内ニ
 蒸氣ヲ通シテ温ヲ取ル故ニ此玻璃室内ハ嚴冬
 モ常ニ八十度以上ノ温氣アリテ熱帶諸國ノ草
 木ニテモヨク繁殖ス○ラヂカル、ミヂエ、トハ
 專ヲ醫術ニ屬スル博物館ニテク體ヲ解剖シテ
 或ハ骸骨ヲ集メ或ハ胎子ヲ取り或ハ異病ニテ
 死スル者アレハ其病ノ部ヲ切取り經驗ヲ遺シ

テ後日ノ為ニス此博物館ハ多ク病院ノ内ニア
 リ

博覽會

一前条ノ如ク各國ニ博物館ヲ設ケテ古來世界中
 ノ物品ヲ集ムト雖モ諸邦ノ技藝工作日ニ闢ケ
 諸般ノ發明随テ出随テ新ナリ之カ為昔年ハ稀
 有ノ珍器ト貴重セシモノモ方今ニ至テハ陳腐
 ニ屬シ昨日ノ利器ハ今日ノ長物トナルト間少
 ナカラス故ニ西洋ノ大都會ニハ數年毎ニ產物
 ノ大會ヲ設ケ世界中ニ布告シテ各其國ノ名產

便利ノ器械、古物奇品ヲ集メ萬國ノ人ニ示ス
アリ之ヲ博覽會ト稱ス凡、當時世ニ行ハル、諸
種ノ蒸氣機關、越列機エキトル、瓦兒華ガレハニノ器械、火器、時計、龍
吐水、農具、馬具、臺場軍艦家作等ノ雜形、衣服冠履、
文房具、化粧道具、古代ノ名器、書画等一々枚舉ス
ルニ遑アラズ之ヲ概スレハ人間衣食住ノ需用、
備ハラサルモノナシト云テ可ナリ斯ク千萬種
ノ品物ヲ一大厦ノ内ニ排列シテ五六月ノ間、諸
人ノ展觀ニ供シ器品ノ功用ハ各其主人アリテ
之ヲ辨解ス諸人之ヲ觀テ買ハント欲スレハ直

ニ博覽場ノ物ハ得ヘカラサレ其之ヲ産シ之ヲ
製スル所ヨリ定價ヲ以テ買取ルヘシ又博覽會
ノ終ニ至レハ會ニ出シタル品物モ入札ノ賣買
アリ○都會ニ博覽場ヲ開ク間ハ諸邦ノ人皆是
ニ輻湊シテ一時都下ノ繁昌ヲ致ス千八百六十
二年龍動ニ博覽場ヲ設ケ毎日場ニ入ルモノ四
五萬人ニ下ラス來卯年ハ佛蘭西ノ巴黎○博覽
會ハ元相教ヘ相學フノ趣意ニテ互ニ他ノ所長
ヲ取テ己ノ利トナス之ヲ譬ヘハ智力工夫ノ交
易ヲ行フカ如シ又各國古今ノ品物ヲ見レハ其

西海學情 卷之一
國ノ沿革風俗人物ノ智愚ヲモ察知ス可キカ故
ニ愚者ハ自カラ勵ミ智者ハ自カラ戒ノ以テ世
ノ文明ヲ助クルト少ナカラスト云フ

蒸氣機關

一 蒸氣トハ湯氣ナリ湯氣ニカアルトハ鍋釜鉄瓶
ニ湯ヲ沸カシテ其蓋ヲ吹上ルヲ見テ知ルヘシ
今一合ノ水ヲ沸騰セシメ次第ニ火力ヲ強クシ
テ其水全ク蒸發シ盡クルニ至レハ一石七斗ノ
蒸氣トナル即チ七百倍ノ容ナリ蒸氣機關トハ
斯ク非常ニ膨脹スル蒸氣ヲ捕ヘテ密器中ニ封

シ其發力ヲ藉リテ機關ヲ動カスモノナリ其大
略、密閉シタル釜ニ石炭ヲ以テ湯ヲ沸カシ其蒸
氣ヲ細キ管ヨリシリンドルト云ヘル筒ニ移ス
此筒ハ水鉄砲ノ如キ仕掛ケニテ筒ノ内ニ符合
スル鏢アリ鏢ニ心棒ヲ付ケテ心棒ハ筒ノ外ニ
出テ鏢ハ筒ノ内ヲ彼此ニ進退スヘシ蒸氣膨脹
ノ力ヲ以テ筒内ノ鏢ヲ壓シ一進一退其力ヲ心
棒ニ傳ヘテ機關運轉ノ元トナル既ニ心棒ノ運
動ヲ起セハ種々ノ仕掛ケニテ次第ニ力ヲ移シ
上下左右進退圓轉意ノ如クナラサルトナシ○

西洋事情 卷之一
四

蒸氣機關ノ力ハ「シリンダ」ノ大小ニ由テ強弱
 アリ此強弱ヲ馬ノ力ニ擬ヘテ計算ス所謂蒸氣
 ノ馬力ナリ一馬力トハ三萬三千「ポント」ノ重ヲ
 一分時間ニ一「フット」ノ高ニ舉ルカヲ云フ○西
 洋ニテモ往昔ハ物ヲ製スルニ皆人カヲ用ユル
 「本邦及ヒ支那等ニ異ナル」ナカリシニ千七
 百二十年日耳曼ノ人「レオポルド」蒸氣ヲ以テ人
 カニ代ントスルノ説ヲ起シ次テ千七百六十九
 年ヨリ千七百八十五年ニ至ルマテノ間ニ英國
 人「ワット」初テ蒸氣機關ヲ大成シ爾後英亞諸國ニ

テ益、工夫ヲ用ヒ其装置ヲ改正シ其用法ヲ廣ク
 シ凡、川ヲ浚ヘ、水ヲ汲干シ、田地ヲ耕シ、山ヲ掘リ、
 銅鉄ノ荒金ヲ製鍊シ、材木ヲ鋸リ、金物ヲ製シ、木
 具ヲ造リ、毛綿ヲ紡績シ、機ヲ織リ、紙ヲ製シ、版ヲ
 摺リ、砂糖ヲ造リ、麥粉ヲ磨ル等大小ノ工作皆蒸
 氣ヲ用ヒサルモ、ノナシ職人ハ唯機關ノ運轉ニ
 注意スルノミニテ嘗テ手足ヲ勞セス一人ノカ
 ラ以テ數百人ノエヲ成シ其費死ハ少クシテ其
 製作ハ美ナリ蒸氣機關一、度ニ世ニ行ハレテヨ
 リ世界中、之カ為ニ工作貿易ノ風ヲ一變セリト

云フ

蒸氣船

蒸氣船ハ亞米利加合衆國ノ發明ナリ千七百八十年ノ頃ヨリ工夫ヲ始メタレハ屢失錯シテ功ヲ成サス十八百七年ニューヨルクノ合衆國ノ都府トシナル者百二十馬力ノ蒸氣船ヲ造テ初テ大成シ之ヲ試ミシニ三十二時ノ間ニ百二十里ヲ走レリ之ヲ蒸氣船ノ初トスコレヨリ其用法漸ク世ニ弘マリ初メハ川船及ヒ内海ノ渡船ニ用ヒ次第ニ之ヲ改正シテ遂ニ軍艦商船飛脚船ト

為シ萬里ノ大洋ヲ往來シテ暴風激浪ノ難ヲ凌キ攻防ノ勢力ヲ強クシ貿易ノ便利ヲ増シ航海者ノ勇氣昔時ニ百階セリ○蒸氣船ニ用ユル機關モ其大略ハ陸上ノ工場ニ用ユルモノト異ナルヲナシ船ヲ三ツニ分チ舳ト艫ヲ荷積ノ場所トナシ船腹ニ機關ヲ据ヘ船ノ兩側ニ輪ヲ附ケ此輪ヲ轉回シテ船ヲ進ム之ヲ兩輪ノ蒸氣船ト云フ蒸氣ヲ焚ク石炭ノ煙ハ甲板上ニ突出セル煙出シヨリ散ス○兩輪船ハ風浪ニ由テ船ノ傾クモ一方ノ輪水ヲ離レテ船行ヲ妨クルトアル

ヲ以テ又工夫ヲ運ラシ機關ヨリ船ノ軸ニ達ス
 ルマテ大ナル鐵ノ心棒ヲ通シ棒ノ端ニ羽根ヲ
 附ケ楫ト軸トノ間ニテ之ヲ轉回セシメ兩輪ノ
 代用トナスヲ發明セリ此羽根ハ元螺旋ノ道
 理ニ基テ造リタルモノニテ其形チ兒竟ノ玩具
 ニ用ユル蜻蛉ノ如シ故ニ之ヲ螺旋仕掛ケノ蒸
 氣船ト云フ大洋ヲ航ルニハ螺旋仕掛ノ方便利
 ナルヲ以テ近來ハ兩輪船ヲ造ルモノ少シ○蒸
 氣船ノ進行ハ機關ノ大小ニ由テ遲速アリ大九
 一晝夜一百二三十里乃至三百四五十里ヲ走ル

其最モ輕便ナルモノハ飛脚船ナリ飛脚船ハ人
 ノ商賣品ヲ積ミ旅客ヲ乗セテ諸處ニ往來ス大
 抵帆前ヲ用ヒス蒸氣ノミニテ走り風ノ順逆ニ
 拘ラス着發必ス日ヲ限ル歐羅巴ヨリ日本支那
 等ノ間ニ往來スルモノハ英佛商社ノ船ニテ往
 來ノ間諸處ノ港ニ寄テ船ヲ替ヘ宿次キニテ彼
 此ニ達ス日限ヲ誤ルヲナシ大抵日本ヨリ歐羅
 巴ノ地ヘハ海路六十日ニテ達スヘシ

蒸氣車

一 蒸氣車トハ蒸氣機關ノ力ヲ藉リテ走ル車ナリ

車一輛ニ蒸氣ヲ仕掛ケ之ヲ機關車ト名ク機關
 車一輛ヲ以テ他ノ車二十輛乃至三四十輛ヲ引
 クヘシ一輛ノ車ニ人数ニ十四人ヲ容ル其製作重大堅牢四個ノ
 鉄輪ニテ走ルカ故ニ尋常ノ道ヲ行クヘカラス
 必ス之カ為道ヲ平ニシ車輪ノ當ル所ニ巾二寸
 厚四寸許ノ鉄線二條ヲ填メテ常ニ此上ヲ往来
 ス之ヲ鉄道ト云フ鉄道ヲ作ル費ハ地形ノ險易
 シテ日本ノ里法一里ニ由テ同シカラス大凡平均
 ニ萬七八十兩ナリト云フ鉄輪ヲ以テ鉄道ヲ
 走ル車重大ナリト雖此之ヲ動カスト甚容易ナ
 リ此車ヲ蒸氣力ニテ引クカ故ニ其迅速ナルト

蒸氣船ノ以類ニ非ラス文久壬戌ノ秋余輩魯西
 亞ノ彼得堡ハルビユルグヨリ佛蘭西ノ巴理斯ニ至ル其道
 程日本ノ里法ニテ七百五十里余アリ此道ヲ三
 十一時ノ間ニ走レリ休息ノ時刻ハ之ヲ除ク此蒸氣車ハ甚
 疾キモノニアラス英國ニテ最モ急行ノ車ハ一
 時ニ五十里余ヲ走ル○蒸氣車ノ發明モ大抵蒸
 氣船ト同時代ナリ但シ之ヲ實地ニ用ヒタルハ
 蒸氣船ヨリモ晩シ千七百八十四年井ルム
 ルドク初テ蒸氣車ヲ製シタルハ輕小ノ玩具ノ
 ニ爾後二十年ノ間之ヲ改正スルモノナク千八

百二年ニ至テリチャルド、トレスチック機關ノ工夫
 ヲ大成シタレ氏尚之ヲ實用ニ施サス千八百十
 二年英國人ニョージ、ステフンソン蒸氣車ヲ造テ
 石炭ヲ運送セリ之ヲ蒸氣車ノ初トス但シ未タ
 鉄道アラス千八百二十五年同人ノ工夫ニテス
 トックトシヨリダレリントシノ間ニ鉄道ヲ造レ
 リ日本ノ里法ニテ即チ世界中第一着ノ鉄道ナリ
 コレヨリ歐羅巴諸國及ヒ亞米利加ニテ皆其法
 ニ效ヒ國內縱横ニ鉄道ヲ作り車ヲ製スル一
 年ハ一年ヨリ多シ旅客ヲ乗ヒ荷物ヲ運送シ東

西ニ驅セ南北ニ走ル恰モ是レ陸路ノ良舟、千里
 ヲ遠シトスルニ足ラス蒸氣車ノ法世ニ行ハレ
 テヨリ以來、各地産物ノ有無ヲ交易シテ物價平
 均シ、都鄙ノ往來ヲ便利ニシテ人情相通シ世間
 ノ交際俄ニ一新セリ西人云フ近來ハ西洋諸國
 ノ人、旅中ニテ父母妻子ノ病ヲ聞キ遠路ノ故ヲ
 以テ其死期ニ及ハサル等ノ如キ迂遠ノ談ヲ聞
 カスト

傳信機

傳信機トハ越列機篤兒ノ氣力ヲ以テ遠方ニ音

信ヲ傳フルモノヲ云フ越列機篤児ノ力ハ古來
 支那人ノ全ク知ラサル所ニテ自カラ本邦人ノ
 耳目ニモ慣レス之ヲ簡約ニ辨明スルヲ甚難シ
 故ニ今コヽニハ越力ノ性質ヲ論セスシテ唯其
 作用ノ大略ヲ記ルスノミ鍛鉄ニ越列機篤ノ氣
 カヲ通スレハ其鍛鉄磁石力ヲ起シテ他ノ鉄片
 ヲ引ク氣力ノ流通ヲ絶テハ之ヲ放ツ傳信機ハ
 此理ニ基テ製シタルモノナリ此所ニ越列機篤
 兒ノ仕掛ヲ置キ彼所ニ鍛鉄ノ仕掛ヲ設ケテ此
 彼ノ間ニ銅線ヲ張り此線ヨリ越氣ヲ通スレハ

距離ノ遠近ニ相ハラス其氣忽チ鍛鉄ニ感シテ
 他ノ鉄片ヲ引ク隨テ其氣力ノ流通ヲ絶テハ乃
 チ復タ之ヲ放ツ斯ノ如クシテ一通一絶隨意ニ
 鉄片ノ運動ヲ起スヘシ既ニ鉄片ノ運動ヲ得レ
 ハ其動機ヲ針端ニ傳ヘテ紙ニイ、ロ、ハ、ノ記號ヲ
 印シ之ニ由テ音信ヲ通スヘシ其神速ナルヲ千
 萬里ト雖氏一瞬ニ達ス各處ニ線ヲ通スルニハ
 其道筋三四十間毎ニ柱ヲ立テ高八九尺ノ所ニ
 線ヲ掛ク水底ニ沈ルモノハ線ノ外面ヲ覆テ水
 ヲ防ク線ヲ通スル費日本ノ一里ニ付キ陸上ノ
 九、三百兩水底ニ通スルモノハ四

千 現今西洋諸國ニハ海陸縱横ニ線ヲ張ルヲ恰
兩 蜘蛛ノ網ノ如シ互ニ新聞ヲ報シ緊要ノ消息
ヲ通シ千里外ノ人ト對話スヘシ公私ノ便ヲ十
スヲ舉テ言フヘカラス西洋人ノ諺ニ傳信機ノ
發明ヲ以テ世界ヲ狹クセリト云フモ亦溢言ニ
非ラス○西洋ニテ急報ノ法往昔ハ唯相圖ヲ以
テ事變ヲ報スルノミナリシカ千六百年代ノ初
ヨリ其相圖ニテ事ノ次第ヲ告クヘキ仕掛ヲ設
ケテ高キ所ニ番所ヲ建テ望遠鏡ヲ以テ互ニ相
圖ヲ見テ次第ニ遠方ニ報告スルヲ發明シ千

七百年代ノ末ニ至テハ此法益精巧トナリ諸國
一般ニ之ヲ用ヒタリ越列機篤兒ノ力ヲ傳信ニ
用ユルハ千七百七十四年佛蘭西人レ、サジノエ
夫ナリ此人初テ其仕掛ヲ製シ爾後越列機篤兒
ノ學次第ニ開ケ随テ傳信機ヲモ改正シタレ氏
之ヲ大仕掛ニシテ實用ニ施スヲ知ラス千八
百三十七年亞米利加ノ人モールス五年ノ試験
ニ由テ大ニ發明シ之ヲ實地ニ試ントスレ氏貧
ニシテ資ナシ乃合衆國ノ政府ニ願ヒ三萬ドル
ヲ以テ得テ千八百四十四年華盛頓府合衆國ノ
首府ヨ

リバルチモール府マテ十七八里ノ間ニ線ヲ通シ
 シ兩府ノ消息ヲ報シタリ之ヲ世界中傳信線ノ
 初トス水底ノ傳信線ハ千八百五十一年英國ノ
 下イギリス岸南地ヨリ佛蘭西ノ海岸ニ通スルモ
 ノヲ初トス爾後此法ニ效テ諸處ノ海底ニ線ヲ
 沈メ千八百五十八年ニハ亞多喇海ヲ横キリ亞
 米利加ト英國トノ間ニ線ヲ通シタリ其長日本
 ノ里數ニテ殆ント千里ニ近シ但シ此傳信線ハ
 成功ノ後錯テ其働ヲナサヌ由テ之ヲ廢シ近日
 再興ヲ企ツト云フ

瓦斯燈

一石炭ヲ釜ノ内ニ密閉シテ之ヲ蒸燒キニスレハ
 炭ノ氣ヲ發ス此氣ハ炭化水素瓦斯ト云フモノ
 ニテ之ニ火ヲ點スレハ空氣ト合シテ燃ヘ其光
 油、蠟燭ノ火ヨリモ明ナリ千七百九十八年英國
 ニ於テ初テ瓦斯燈ヲ用ユルヲエ夫シ爾後其
 用法漸ク盛大ニ及ビ各國ノ人、商社ヲ結テ瓦斯
 ヲ製シ之ヲ市中ニ賣ル其仕掛ノ大略大ナル釜
 ニ石炭ヲ燒テ瓦斯ヲ集メ街道ノ地下ニ鉄管ヲ
 埋メテ其瓦斯ヲ受ケ管ヲ以テ管ニ接シ市中縦

横ニ通達スル一本邦ノ水道ノ如シ此鉄管ヨリ
小管ヲ枝別シテ市中ノ戸毎ニ引キ火ヲ點シテ
燈トナス又街道及ヒ橋上ノ處々ニ瓦斯ノ燈臺
ヲ設ケテ往来ヲ照ラシ光明晝ノ如シ方今西洋
諸國ニハ燭ヲ携テ夜行スルモノナシ

附録

西洋ニテハ大陽曆ヲ用ヒ平年三百六十五日ト
定ム故ニ數年ヲ經ル間ニハ我邦ノ月日ト一月
モ違フコトアリ或ハ正シク双方ノ月日相符合ス
ルコトアリ何レモ我邦閏月ノ有無ニ由テ然ルナ

リ

一晝夜ハ二十四時ニ分ナ子午ヲ第十二時トシ
復タ第一時ニ返ル故ニ西洋ノ一時ハ我半時ナ
リ時ノ順序左ノ如シ

第一時	我九	第二時	我八	第三時	我八	第四時	我七
第五時	我七	第六時	我六	第七時	我六	第八時	我五
第九時	我五	第十時	我四	第十一時	我四	第十二時	我四

一時ヲ六十ニ分ナ之ヲ一分時ト云ヒ一分時ヲ
六十ニ分ナ之ヲ一秒時ト云フ一秒時ハ大抵脈

ノ一動ニ同シ

一物ノ大數ヲ記ルスニ億ト云ヒ兆ト云ヒ諸説一定セズ今此書中ニアル物數ハ一、十、百、千、萬、十萬、百萬、千萬、一億、十億、百億ト十階ツ、ニテ次第ニ計ヘ上ルナリ

一寒暖ニ幾度々ト云フモノハ水ノ凍ル寒ヲ三十二度トシ湯ノ沸騰スル熱ヲ二百十二度ト定メ其間ノ度數ニテ寒暖ヲ計ルナリ大抵春秋ノ氣候ハ五六十度夏ノ暑ハ八十度以上百度トナルトハ稀ナリ

一英亞ノ一「フ」トハ我一尺強ニ當リ一「イ」トハ

「リ」ト十二分ノ一ニテ八分三釐強ニ當ル

同陸ノ一里ハ我十四町四十三間弱ニ當ル

同海ノ一里ハ我十六町五十七間強ニ當ル

一佛蘭西ノ一「フ」トハ我三尺三寸弱ニ當ル

一英亞ノ一「ポ」トハ我百二十一寸強ニ當ル

同一「ト」トハ我二百七十一貫目強ニ當ル即米六石七斗七升余ノ重ナリ

一合衆國ノ一「ド」ラトハ我三步ニ當ル方今我邦

ノ貿易場ニ行ハル「ド」ラトモ大抵合衆國ノ

ドルラト同量ナリ此ドルラトハ合衆國ノ鄰國ノキシロノ通用金ナリ

同一セントハドルラト百分ノ一ナリ

一荷蘭ノ一ギルデハ我十八々ニ當ル金一兩六十目ノ相

場

二英國ノ一ポントスチルリング書中ニ唯ポニトト記スハ我

三兩ニ當ル

同一シルリングハ我九々ニ當ル

同一ペンシハ我七分五釐ニ當ル

一佛蘭西ノ一フランクハ我八々ニ當ル

同一シトハ我四分ニ當ル

一通用金ノ割合ハ時ノ相場ニ由テ一定セス前条記ルス所ハ唯其大概ナリ

一 本編ハ專ラ英亞ノ書ヲ翻譯セルカ故ニ度量皆

兩國ノ制ヲ用ニ遇他國ノ度量ヲ舉ルハ其下

ニ割註ヲ附シテ之ヲ區別ス各國度量ノ比例ハ

西洋度量考ト云ヘル刊行ノ書アリ就テ見ルハ

シ

西曆一千七百九十三年十一月
英國海軍大臣皮爾斯在倫敦
宣佈英海軍在印度洋之戰
果獲勝利。此役英海軍在
印度洋之英海軍在印度洋
之戰果獲勝利。此役英海軍
在印度洋之戰果獲勝利。此
役英海軍在印度洋之戰果
獲勝利。此役英海軍在印度
洋之戰果獲勝利。此役英海
軍在印度洋之戰果獲勝利。

西洋事情卷之一終

